新板繪入

風流勸進帳

二

1.625
2

泉孫

1625

風流勸進能巻之弐

同孫

第一 船弁慶

船とあるハどちらがよう御座

ふさとかんとのあらそ

第二　熊谷

湯屋の形ひとり母のいとう地獄
の形見ふ姉ちとばきの道行

第三　薬の効

左帽子やぐ京上りとと
ぎす
生てきく名月の豆ばくし

船ふる

式ゆうとの若でござる。左帽子やぐ山ア分る月ものぐ山ア分る。先ア先ア
と始ぢる。左帽子やぐやあるうやいハア山ア景ふ。行んまふまうさ。海ア出ア
車家の家でふい。今は八月ものそ。伯父山の方へ来る。俺せい景ア
ぢ。ア家ア生来ぢる。イヤまぐ山ア来ぢと言ぬ。ア行よりもものぐさ
せいあるぢやいそひで月ア出せいハア月ア出ア。ぢうぢ。ぢうハ行でぢる
んとよいて家ぢやるアハアこの屋ア山ア行ぢまん。式ア山のくさハ
ふ風家子人ふんをうぢ行ぢで有ア。ア行でハアうまもアハ山と
月ア屋へ元寺ぢうよい財で有ふ。ア屋へアハ山と元寺ぢうよ
最初ア山ア行ぢまんまい史ハ都と帰て来ア山ア都と帰ぢきま
うぢハ行ア居ア分ものまいいうぢ食行居ア分ものまいいうアイヤ伯父ア

いふもの門じや。なまがあるバよいが。船ハ向ひに出て居ります。左らバよべい。蓮生
法こゝなよオイヤイ。太郎じや拙じて私をよぶなら私と云
てよぶ物なれども今がある物が次第で出て居りますまで嫁私も
ハびごとをなされが縁で出て居りました。丈ハなんとしてなさるかたし
なが寿梭が出て居りました先祥に見てハなる玉祥仏におはそハ高僧
光をの上詠にも漁父なるでを出ていてさるといふもの。ムヽそふいへハ
此方にもなる縁とのふたしかな沙漏梭がある。神在に八幡大明神仏在に八
弘誓の舟禅師にも船渡ってなるを留む所よあしとして阿弥陀ハ宝
なもふハひがるすじや。イヤまづさなるしとい櫓枷が出てきました。篙に船
乗寄船楫なるさおふ梶江の船と瀬ひなるだちも宝にゐる日のと瀬
又ハなるに揺のまわし文字八文此方にもなるより擁があり先岩
家船淳船と以ひ表上県に金て船よるのと瀬ひ此なるの陸路に

はくづき様もなしと六瀬ひぬものでまへハなまぬでよまつるなみなから
が出るます。まづなのて空也上人の作りまつる船和讃
が出ます御ききで戸法なるのそで戸せ
なもなくなる日々のかくれやくに法然の教ひぞあるが
こゝ世にある村のものにちなわ出て居るなまざるうり縁もなかなき
亭主のあなたハ村の娘の子作りをなる生まれへかつまで記を
こんな縁ぞもなかのまやかのおめでたなる。座頭の一引つまで
はしおかーつまで引や酒のさらにハなる事をはすなされ吸物く
の酒にハよるでで酒によるこ又ハ川魚のなる様び船でてまでもひ
刈て太鼓たぐみの大さ此子嫁くまハ葬花や世君のさうき
なるよ山のハ十夜の鐘のなき。なまつらし世あん念仏せあんて通
夜の手なるを百まへしいまハまるさ九十九夜く念ひとび

ふるの里ひさかたの天の原も雲ゐの山世ふ海つべきかつぐ山男ハ高辺壁の
やまの長山のうけかる。末ハ弘誓の舟浮山八功徳池の池の面
漢良解くをいとかぶるわぶる名ぶるまくろまで。むさぼて拝ぶを
りさふるもち佛の姿歌ありうあもふみ〳〵あこぐと
せバ。ふる〳〵ひがうあつたりまん。イヤ汝が方にあるさんがつ〳〵ハ
ひかかハ道長徐仙去他の姿拝ぐ〳〵の杖どがある御そ宝ふ。
たるふる拝べエイく芸。たるふまを拝べエ拝紅の姿ハりろうあ
貨物〳〵ろ老ぶりがつ系散る物の紫ふいしけるくしさて
うふの歌てうろ流まとくそ歌を似ろ。文ようなみるる
まで紅とけるて歌の面歌ふ荷歌や言歌歌歌ふ〳〵と
行ふる〳〵川歌歌ハうる系くく貝と芸ひ〳〵かさ紅も者
どう。歌仏の歌ハふる歌や是のいるハ芦分歌歌の汁ぬハ歌ぶ行

ふやひさやくのふ行ハて〳〵ふる。むう〳〵祖父ハ山〳〵紫歌やばぐハ川
歌ぶ〳〵ふあ〳〵ど芸ぬ歌夜いつう足初て足初てあて長ふんと
帆けて。むすぶいりせふや〳〵うこ歌や山歌り行てるんぐ〳〵ざうふつ
つうけふるふを解。りち歌歌歌歌歌屋ふ歌。いで歌時の行の系ハ仏
歌〳〵姿行ふ歌のて。続ふいばぐちく歌ふの法の道引歌ふ姿
遠ひも姿へ流一紅行て歌夜の系〳〵ふたる歌歌歌歌とそむけ
ひん〳〵ふる歌の夜歌川口て紅歌る湯ふ姿行ふのかぐを
ぶ行歌ハ行ふ〳〵ふ行のへ行ふ〳〵ふ歌のやけさ。御へハふる〳〵
いふひて系のぶそよ。イヤまぐふ歌ふ歌ふ歌ふ歌ふ歌ふ歌ふ歌ふ歌ふ
まんぐう歌ぐ〳〵ヤりがつ行りまん。イヤあ〳〵ふ歌ふ歌ふんぐ〳〵ふ
行歌のりでハふいふ。ふんぐ〳〵ぐ〳〵ぐんハ金箱で行ぐうまん姿行と〳〵
金箱ぐぐりまんまい。ふよ〳〵ふ金箱がふの。文ハまんとでぐうまん

ふまや銭ふ納んでとハ叔ぶのやまさ九納んでござんすぶん小福やさまと八
ワハヽヽヤイちぶそをやまあいやうを倒と髭ぶでイヤさておもふも江
ざ耕どもぬ納んやワハヽヽヤイあゝおやつまく縁ちる丈でも極楽やさ
らいぬ納んやワハヽヽヤイ　ちふ金ぞや多枯やさが称しい九銭ん
かゝのくハあるまいぞ〳〵

熊野

宗盛公ハ平相国の子息にて平家全盛の花と栄え天上の栄
花極楽の身にあまり給ふしの言へを行るたのしみにいつ揃の座敷
のつくり事ハいふもさらなり侍女の中にも美女をかゝへ置屋をや
ゑ酒宴ハまいにち上にも男女を取りんと上ミ座をさらく下萬民まで
永きども宗盛ニ入るさきあるとき宗盛ハ仙洞御所の御ゆへ召さ

風呂屋のあとを通りまし〳〵か春中を流して居るおぬうといふ娘を見初めさる
よりいゝきたいものじやとおもひにたまるゝ人をやって同道せん事を頼まかし
ひぬせて今で通ひまして此娘えハあづまの生れしが此へ来て彼風呂や
へ来て朝夕のとりみがきをしてありのとまりをいたしけり雑
右流行の此若衆を今でハ面白からず此屋形へ入りてかつれあまり親分風
呂屋の娘ゆへハ一門中の末々までもいろ〳〵新蔵篤親分
してかぬゆそハ流めぬ風呂屋の娘をまづハとて湯やと名を改て屋
形へ入ます事ぞ昼ハ日がな一日湯やに酌とせん酒とのことらし
夜ハ又入るさるのちハ天に月夜ハ月に此あいハ鬼手の角をはへ
ひて来ますあるとき故郷より母親よりての文の扁の宗盛にて湯や
娘親父ても寝たのまぎりぬことを持て添ひにまぬ此親
色よく親の起てまづ化粧せぬ顔のひらひ涙して笑しいとて親

在所より陽やたゞ小発き彼方をもゆへば発きたるゝ
我身はこの度の旅ひうるやはなるやはなの間
ちと発抑生て月半ばかりまくちぐの間ゆるりと遊事
成るべしハ生方ゆうこと発まへ下りてまつぴらはさごゆうちんきん法
月をとハ変月とハ只くちぐの間乃ちまてとまるハ今ハ行や
や月の出げくはまくちぐ百度も色ちと色きさ少かのうちまり
ゆうくとまてまて変ふる他まへ来うのうとうと発抑ちくらへハ
ぜひとも我身ちぐくの間乃ちまてとまるハ我の旅のうちまく
ハ間りじとふゆ度ゆうち必くつちとを行入のくゆうぴ湯屋どのうち毎
今とそて奥小ゆうのすぐうち
ハ遠ひが来うう返ちのふめくハ急を陸のうちで軽まくちる
そも何方とまハぜいきゆおりゆ若陽のようあるゆうう湯屋

ぜみと見ようも涙小かきくまき居らしがようく山中上まぎくの山
いと面白きうんと宗盃へかくと形ひまぎも内入る山まの紙んのも
いそ月抑ひやうハの変地まの紙盃いぶや生ちと生ま行し関事と
ろハつものうち白かうとかてくふまきかちぐひろそ二へぱき乃行
ゆをもて柱ぐん月きくとざくめてやそ屋うをを立生ち
百貫の大宮人ハいとあまかぐ桜の色夜拵衣ぎりうて宗盃
云の出立めく射の大小也和歌人小見まぐちまぐどはくこうる
用ぐうと陽やハ見ふもそ涙あて目かやくあ茂小毋の仮と松茂
ぐまかうぐ戸ぐまのぐ毋とやくはぐ見て色とくうたのやこぐり
屋形小ナーみすうで髪のひまりとそ毋ぐんちるの日来の出
くしいぜいくんざ二つ言いはうなるぬ所風小やつせぐちるれ山
所そぐち色とくあて行生の小不おりてと見屋ぜハくふハあやき

そ為ぶ共ちなもこの事を書月聖仮こてふ[illegible]ら楊弓の神ひとぢ
きーかくて的ん上ろ山ハひへの山彼業平のたとへてもけてもち汁と
ん上ろも上いそでばりの辻君の夜ごとくふこてよ上位ゑと為て色
と奥ぢ男女ゑ糸の橋のうへ老若男女させんとひいろめく袖のかり獣
ひとまがうーしーかく芋かとーいーとまめけハ此の所を絵ハ足こ
ぬるもるあ道あまハどこかごこ中町の名をちもちまぬ実ハ町
聖良かげこのあるふうハ女しもうんく男ぞーゆびぶせんハあ位の
こーぶつりけの五福ちもふんてし大仏反山仏のたきさハとるの
穴ちるもかくとさーもかーう只物めきあーゑ系の品ハ大為大人
地の品極ひあらびのちとふーあげこ母の玉の絵ちとかきとーん山形ハ
かけ芋のひちふるふーらそるくーしーこ世やこ世やせんぶい九世あ
新ちも同色あらこて六ちとの地ゑとるこうのちさてふ迷ひふ

とちて色あ上道の辻とやきこ怨ーこ名もたうもしハ世ちめいどこ
通ふ物ぢ記ハやるあるかうとたこハかまて行ハうのふりしの者西大谷
の七つ五ア上ハ子ぢ上ア一厂今ハく玉意の山みる夫ハ厂今芝
ハまて梅ふ本ゑ名ゑのホウ法法華の名辺山法の為てあべうづく
日新拓ハあまびとて三ちふ月ゑ世ハ拓ハよくも流まのいろふのや
如良くれげさよ流い伊ざやと世ゑるみこい拓ーやしい流めけハ家も
ア上ち拓ハ世ちさあい流ハふ別のゑとハよふ流ちあの与矢ハ五てハ
人もまて五二二とちぬかけまるこ良い新して流拓び疫まの
ひつごとさやくかふいけせ世ゑ流ゑ世ゑいるおやーこ者ちひて
志ゑ者ゑ一かた者ん流ハ仕本の人の目を為て拓もよい風よい安
うーやまーとーとやさまて志ハ子拓のちよこーばーこもゑ先上ア流ゑ
板ア八志んどやと立ちゑハ拓ゑ者ゑ出てそばやそうめん一ぜんめ

弁天堂はうへと呼ぶ奥の座敷にさうし花ざかりの木ゝにやさしいおつ
恋の君がこゝろにひかされとゞまりてとゞまりつかまつりもとゞまりまいその葉の本と
しやほとゝぎすつよまりつかまつりとゞまりまい。洗ひさせたるハ姫が中 ならひ
月日かさねまりハさのふハ今の御堂ならず見る手並の妻
花の秋まで花の香ハ清水も三へ京のハ若子花いのさなご子安の塔
と打まんじ楼をもちりぬのちり落ちは去るものかちとひろひつゝたどるく
てやうくとくる夜やどりにはさかりけり
かくて用意の地主の庭花の下かげ夜く打見て志よき座敷て待まする
にハ三社別当前ていとやく宗盛へハ湯屋とかくしどやく入来る夜くの内
やすてもやはら花見酒アしく花ざかりおふさへさ酒盛んの奥に十分酒がかゝって面
白いとよみんなもみんなさ湯屋ハ只いあつまの母のふところかゝって
宗盛ハ三社前コレ湯屋は面白いと宗盛は封んしてわざ

にいぬ中らぬ経付傍杉どよんでアしも経冊とはさやまへ若
にまさ酒にせふひくとさらめらぎぜひ一条じろ一堂
の弁経冊にさてめける
いふに花好のともらまけれどあまつ吾妻のもてやそこ私ん
宗盛経冊を上げおひ花ハ湯やがけどろより親へあづまの母のいさ
まるも由へ下もさきとの家の心親とさて子の道にならぬ道理あり
まやくいとをとさらるハそぎのつまにかろべしきやよぞうさもしき弁の
宗盛やしたる道のがらを家も情を聞かせで去る恋の別れ
ハ新ひの汁し見へ嫁し涙にかきくれてかくて都にぞ作せバ又きやのかかつ
いらべき只さくにいはゆへ湯あげかまくこれぞ縁の氏ともそ
らくにあづま絵さして行そのやがてかへろし其を行くそきハ
恋路紙ハまくさ花を見んすてゝふきおくる

菜乃花

ひろまの若ていざり一人左仕ふ左帝ゐ
ざるごきのまそでぬぬ袖ぬ袖ぬ袖ぬ
袖ぬいまぐ月ぐあ〳〵出ぬ月ぐい月で
しねどろ十〳〵左帝ゐでやあるやいと
ゐ左帝ゐでやおるやいまへふ十二月ふ
ふ海月の月て起へきろ
ふのふまでもゆめふ改ゐてゐ〳〵ゐ
ゐ折ゐ抜ゐ出ゐ抜ゐれてゐ
ゐ〳〵ゐ出ゐ月ゐて起へのゐれゐて
ゐ〳〵ゐ出ゐ月ゐて起へのゐれゐて
ゐ左仕ゐ起ゐ左帝ゐでやあるやいと
ゐ左帝ゐでやおるやいまへふ十二月ふ
ふ海月の月て起へきろ

聖へ来ゐ殺まして攻ゐも延〳〵待ゐ
ハゐまれ打ふ鉄ゐもいゐ抜ゐも世へ
起ゐ張やゐふ高ゐ加と世酒一左ば
聖へ来ゐ殺まして攻ゐも延〳〵待ゐ
もゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ
史ハ世ゐ史で世ゐゐ世ゐ矢ハ懐ゐ
ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ
他ゐいゐて遠ひ株と株ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ
伝ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ
ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ
生ゐ〳〵ゐ株の株ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ
ゐ風ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ

熊野
ゆやとやん
ちちちちーそ
しみえちーの
手のむひとり
ちーーーーーて
ちちちちて
ゆきあて
てれみ
ちちちちて
ちちけ
さ移
そびりか

の謡うの…とりつけて致しません。いろさ…八…じやといふ…の文句
及んでおりますが何ぞ珍らしい物ハありませんか。されバ京の東山を丸山と申
所が婆ざりませぬ。丸山ハてきくの花の…ト見酒致しまして是ハどの様な事
じや。家々より作り出ました菊の…ろくの名を付ましてかちよろく
…まわる事で婆ざりませぬ。其きくの花の大きさ…くの花がかざりて
是ハくわるの面白へる事で婆ざりませぬ。さやイ太郎…じや是ハ…見て
性…愛さばらりて…ハおもしろかるもので珍らしいものハ…
かかるまもしさもも婆ざりませぬが。九月十三夜豆名月の作を…
ほくして作りましたを見えて…ました是を申て…せ…是ハよろ
ろふいそでいへ…床机をめぐらい…まして…床机。シテどふじや
八月十五夜ハ…の中バ…して月をめてねぶ…むりより今ま…
まで…も作まる…九月十三夜の月ハ…の…よくまず…

…く…も…夜…八月とかて…よりとよ云てさ…も…
とらひて月を待の豆をとらひて月…むくるの…
其…をかん…と…屋の庭に…かけ豆を出してひる…月を
…今宵の…天…豆も…とり…雲の…豆も…
面白…と…ふ…て…とする人…とよ…来…今宵の
月…に…まして…や…月…花…ぞ。枝も…
か…豆に…の…豆で…て…おいらい…
め信…の…より…てすね…の…豆…豆
…豆…奇…て酒を出し…ハ豆…精豆…
豆に…茶…て…一…伊勢…源氏豆
…の…を…し…豆…山の…文ハ豆を
…て豆の豆…いふ曹子…七歩の詩を…ハ

發句して其豆に云述るもありて一入興を催しけるとその夜の云けるは
ハ此宵の月を賞翫して和歌連歌俳諧を催して候ぞんといへハ是
ハ面白き趣向也と何も同心して各吟じけるが中の和歌連俳狂歌する
ところ豆にちなみて一首ぬるしけるとてんやけめへ道を作りける
ほど揃へてありけるが豆蔵豆蒔歌きの男文庫豆の
道も志らず揃ハ和哥連俳の元ハえらび極まる次第に豆の粉ハぬか埃を
なりあかしめてるまゝ道と云其の面ども思ふまゝにはじめ豆によくもあがりなる
まハめんげん豆といふ歯のあはぬでも月に寄る名にし豆を作る徳とせち
かゝる今ハのぶる事あつてごまめなどゝ言ハず豆の汁
と濡すくしなんきん豆とせきて申さくと楽しく出しまつ夫ハ是とぞ申さ
なき小豆あさき豆や枝豆と立き出る月の影のさやまめ
とゞまりでなきらきぬものといて僞めかしう
　　　　　　　　　　　　　　　　郎之其涼